

研究課題：ステロイド感受性ネフローゼ症候群再発時ステロイド治療量と予後の検討

1. 研究の目的

ステロイド感受性ネフローゼ症候群における再発時の第一選択はステロイドであり、ガイドラインでは2 mg/kg/日あるいは60 mg/m²/日（最大60mg/日）が推奨されています。しかし、難治性ネフローゼ症候群の患者ではステロイド内服の期間が長期にわたることも多く、ステロイド治療の副作用である低身長や肥満が問題となります。そのため、ステロイドの総投与量を極力減らすことは重要となります。本研究では、再発治療を行ったステロイド感受性ネフローゼ症候群の症例において、再発時ステロイド治療量と尿蛋白陰性化までの日数やその後の経過を検討します。再発時のステロイド投与量を低用量としても尿蛋白陰性化までの日数が変わりなければ、ステロイド総投与量を減らすことで有用となります。

2. 研究の方法

2005年1月から2020年12月までにステロイド感受性ネフローゼ症候群の再発治療を行った後、1年以上の観察期間を設けることができた再発が対象となります。ステロイド抵抗性の既往のある患者は対象から除外します。診療録から、性別、ネフローゼ症候群再発時の年齢・身長・体重（実体重、身長からの標準体重）、ネフローゼ症候群再発時のステロイド投与量、ネフローゼ症候群再発時の免疫抑制剤使用の有無・内容、ステロイド治療開始から尿蛋白陰性までの期間、治療に伴う有害事象、次の再発までの日数、等の情報を調べまとめます。

3. 研究期間

倫理委員会で承認を得られた日から西暦2022年7月31日まで。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

ネフローゼ症候群の再発時のステロイド投与量に関して上記2.に記載したような項目を、カルテの記載および検体検査結果から調べまとめます。画像（個人情報は一切含まない）が論文内に掲載されることがあります。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用され

ることはありません。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：腎臓科 科長兼副部長 藤永周一郎

研究分担者：腎臓科 医長 櫻谷浩志

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2022年7月31日にまで下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）